



2014年9月11日

野村證券株式会社
代表執行役社長 永井 浩二 様

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部 支部長 上浪 寛
同 保存問題委員会 委員長 安達文宏
同 中央地域会 代表 石川雅英

「日本橋野村ビルディング」の歴史的価値を未来へ伝えることをお願い

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

貴社におかれましては、日頃より文化の発展と継承に深く理解を示されていることに、心より敬意を表します。

さて、東京・日本橋地区で大型再開発事業が動き出す、と新聞紙上で報道されています。再開発地区では敷地内にオフィスを中心とする超高層ビルを建設する構想となっており、「日本橋野村ビルディング」も再開発地区に含まれております。

1930年(昭和5年)に竣工した「日本橋野村ビルディング」は、日本橋川に沿って長く伸びる、船舶を連想させるその姿により、日本橋界隈のシンボルとして市民に親しまれるとともに、昭和初期の「モダン建築」の代表例として今日まで多くの人々の記憶に刻まれてきました。

その設計は、モダニズムの時流の中にあってもこれにとらわれない独自の「自由様式の建築」を目指した昭和の建築家、安井武雄によるものです。「日本橋野村ビルディング」は、商業・事務所・住宅建築など数多くの作品を残した安井の東京での最初の作品であり、代表作でもあります。建物は、それまでの彼の作品にみられた窓・玄関の装飾を排除し、低層部と上部を軽く、中層部をタイル貼りとして重く感じさせ、外観をマッサとする造形表現が特徴となっています。

大阪の船場、御堂筋沿いにある「大阪瓦斯ビルディング」も安井の作品であり、そちらは国の登録有形文化財に登録されていますが、東京の「日本橋野村ビルディング」も2012年に、国際的学術組織であるDOCOMOMOの日本支部 DOCOMOMO Japan による「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」の一つに選定される等、近現代の建築史を語る上で欠かせない建物であり、日本橋ばかりでなく我が国にとっても、その歴史的・文化的・都市景観的な価値において極めて貴重なものです。

現在の計画では、戦前に建てられた中央通りに面する部分は保存し、美術館、レストラン、イベントスペースとして活用される方針であると聞き及んでおりますが、今後、詳細な計画を検討されるにあたっては、「日本橋野村ビルディング」の原形をさらに可能最大限まで保存し、その歴史性・文化性・ランドマーク性に潜在する経済的資産価値を積極的に活かし、未来へ引き継ぐ建物として永く使い続けて頂きますよう、ここに切に、お願いする次第です。

なお、公益社団法人 日本建築家協会としましても、出来る限りの協力をさせていただき所存であることを申し添えます。

敬具